

## 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の試料（例：血液など）や診療情報（例：カルテの情報など）をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、下欄の問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

試料・情報の利用目的及び利用方法	<b>研究の名称</b> 食塩摂取表を用いた減塩指導の効果、および減塩による脳性ナトリウムペプチド低下効果を検討する前向き観察研究
	<b>研究の対象</b> 2022年度と2023年度にJA静岡厚生連遠州病院で健診を行い、食塩調査票を用いた指導を受けた方
	<b>研究の目的</b> 日本の高血圧患者数は4,300万人に及びますが、血圧が良好に管理されている割合は27%しかいません。食塩摂取の増加は、血圧上昇を生じるだけでなく、脳や心臓の病気をおこしたり、それらによって亡くなる方を増加させます。御自身の食塩摂取量を知ることが出来れば、減塩への意欲が高まり、減塩の実現が期待出来ます。食塩摂取を評価する方法として、24時間尿をためる方法(蓄尿)は優れていますが面倒で、1回の尿を用いたり、食事摂取調査によって食塩摂取量を推定する方法もありますが、正確性の検討が不十分なために十分に利用されていません。私達は最近、蓄尿による食塩摂取推定値と高い相関を認める食塩調査票を作成しました。しかし、実際の臨床で食塩調査票を用いて減塩が達成されるかはまだ分かっていません。 脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)は、心不全の患者でBNPが高いと心臓病で亡くなる方が増える血液のマーカーとして知られています。更に心不全のない健常者でも、BNPが正常よりわずかに高いだけで死亡や心臓の病気を高率に生じることが報告されています。私達は今までに、心臓に大きな問題がない健診者の方々に、食塩摂取の多いとBNPが高いことなどを明らかにしてきました。しかし、減塩をするとBNPが下がるかどうかは不明のままです。 そこで、食塩調査票を用いた減塩指導で食塩摂取が減少す

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

	<p>るか、その時に BNP が低下するかを明らかにすることをこの研究の目的としています。</p>
	<p><b>研究の期間</b> 研究機関の長による実施許可日 より (西暦) 2024 年 3 月 まで</p>
	<p><b>他の機関に提供する場合には、その方法</b> 共同研究機関である JA 静岡厚生連遠州病院健診センターから浜松医科大学へ提供して頂く臨床情報(年齢、性別、既往歴、合併症、生活歴、服薬状況、身長、体重、血圧、脈拍、腹囲、血液・尿・心電図結果、食塩調査票からの食塩摂取推定量)の提供は、記憶媒体 ( DVD ) に保存し、直接頂きます。 記憶媒体に保存する場合には、個人を特定する情報は削除し、パスワードをかけ、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、提供元機関の研究責任者・研究分担者が保管・管理します。</p>
<p><b>利用し、又は提供する試料・情報の項目</b></p>	<p><b>研究に使用する試料・情報</b> 臨床情報: 年齢、性別、既往歴、合併症、生活歴、服薬状況、身長、体重、血圧、脈拍、腹囲、血液・尿・心電図結果、尿中ナトリウムを用いて計算した推定の食塩摂取量、食塩調査票からの食塩摂取推定量等。</p>
<p><b>利用する者の範囲</b></p>	<p><b>機関名および責任者名</b> 浜松医科大学 卒後教育センター 大橋 温 JA 静岡厚生連遠州病院 高瀬 浩之</p>
<p><b>試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称</b></p>	<p>浜松医科大学 卒後教育センター 大橋 温</p>
<p><b>試料・情報の利用又は他の研究機関への提供の停止</b></p>	<p>あなたの試料または情報を研究に使用することや、他の研究機関に提供することを望まない場合には、問い合わせ先まで連絡をいただければ、いつでも使用や提供を停止することができます。連絡方法は、以下 <b>問い合わせ先</b> をご確認ください</p>

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

<p>(受付方法含む)</p>	<p>ださい。</p>
<p>資料の入手 または閲覧</p>	<p>この臨床研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じて資料の要求または閲覧ができます。あなたがご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝えいただければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲内で、あなた自身にあなたの結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報の場合には、資料の提供または閲覧はできません。</p>
<p>情報の開示</p>	<p>あなたご自身が研究の概要や結果などの情報の開示を希望される場合は、他の参加者に不利益が及ばない範囲内で、原則的に結果を開示いたします。しかし、情報の開示を希望されない場合は、開示いたしません。 また、本研究の参加者以外の方が情報の開示を希望する場合は、原則的に結果を開示いたしません。</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>〒431-3192 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院  部署名： 卒後教育センター  担当者： 大橋 温  TEL： 053-435-2261 (第一内科医局)  E-mail： ohashi-n@hama-med.ac.jp</p>